

景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2024年11月調査～

観光需要は変わらず好調
業態によっては客数と単価の増加が期待される

一般財団法人 南西地域産業活性化センター
メールマガジン

用語の説明

【景気ウォッチャー調査】

・地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々から、顧客の様子など日々感じている街角の景気について、毎月調べている調査。

【DI値】

・生産や消費、物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方向性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回る期間が多いと景気が好調傾向にあり、50を下回る期間が多いと不調傾向にある。

【季節調整値】

・季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏にアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断】

・3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

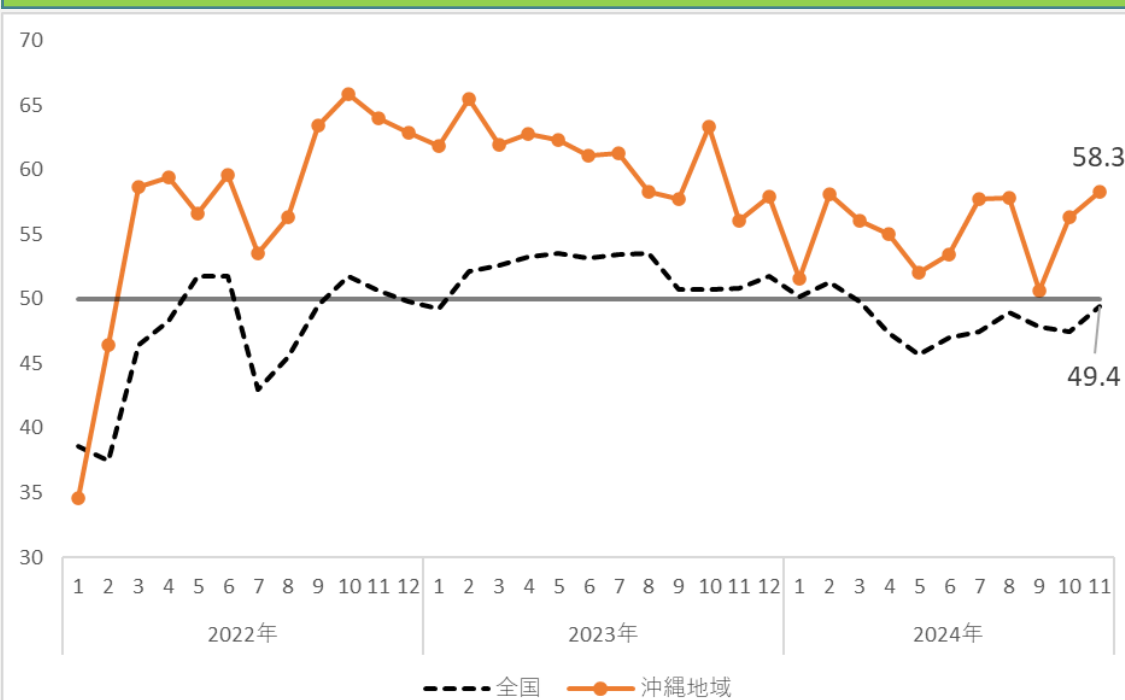
・2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2024年12月9日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2024/1209watcher/menu.html>

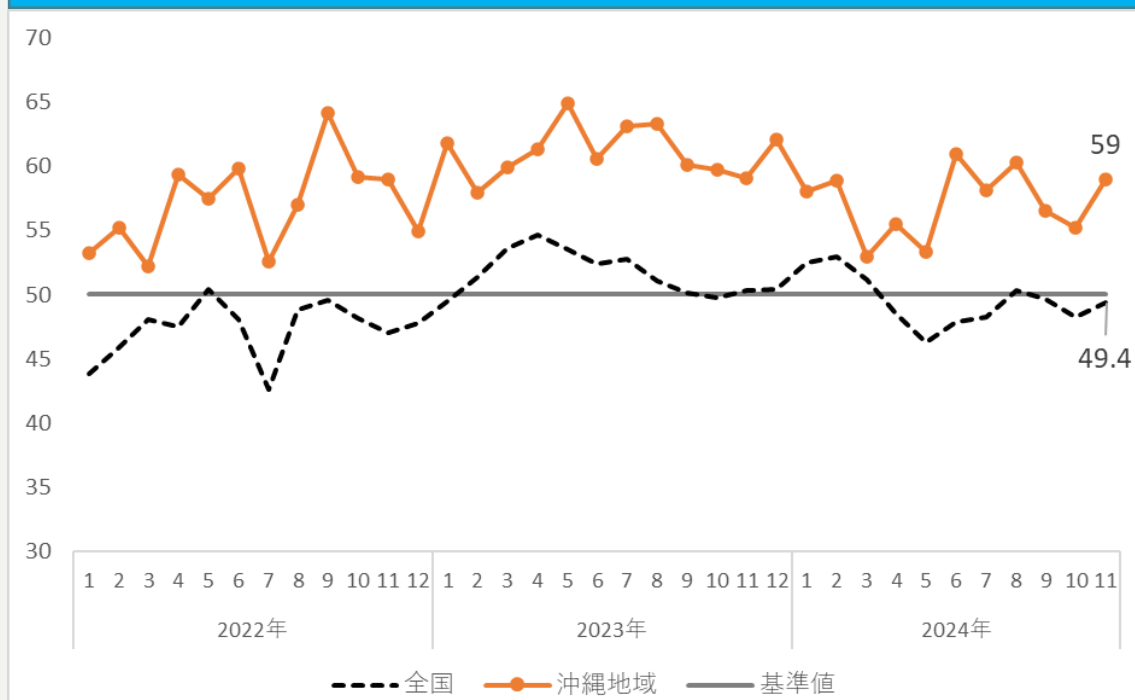
2024年11月調査DI値（季節調整値）

- 11月の現状判断DI（季節調整値）は、前月比2ポイント増加の58.3と2か月連続で増加している。景気の判断基準となる50を上回っており、好況傾向が続いている。
- 11月の先行き判断DI（季節調整値）は、前月比3.8ポイント増加の59となり、好調が期待される。
- 全国の現状、先行き判断のDI値は、49.4と共に上昇傾向にあるが、判断基準となる50を下回る結果となった。

現状判断DI値（季節調整）



先行き判断DI値（季節調整）



現状判断のコメント①

- ・ 観光型ホテルや旅行代理店のコメントから観光客の増加が伺える。また、その他飲食店でも客数が若干の増加になっていることから県内での需要の回復もみられる。
- ・ 物価上昇の影響により来客数や注文が落ち込んでいる業種もあるが、スーパーからは1品単価が上昇したことで、売上実績は良くなったとのコメントもみられた。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎	観光型ホテル（企画担当）	・ 8月の販売室数が前年比26%増加なのに対して、11月は前年比33%増加と、プラス幅が大きくなっている。
○	家電量販店（営業担当）	・ 来客数は前年並みだが単価が前年を10%上回っている。
○	その他飲食店 [バー]（経営者）	・ 日によって差はあるが、前月と比べて若干来客数が増加している。
○	旅行代理店（マネージャー）	・ 受注件数は微増で推移している。海外手配も案件数的には少ないが回復傾向にある
□	百貨店（経営担当）	・ 11月に入っても気温が下がらず、秋冬衣料品の販売量が増加していない。
□	スーパー（企画担当）	・ 今月は、多くの商品が値上げしたことで1品単価が上がり、売上実績は3か月前よりも良くなっているものの、来客数は落ち込んでいる。
□	コンビニ（副店長）	・ 例年だとこの時期は修学旅行生などの利用で平日の売上が見込めたが、今年は期待したほど伸びておらず、購入する商品単価も安価な物が好まれている。
□	住宅販売会社（役員）	・ 建築費の上昇が物件価格に反映され、県内所得が追い付いていない現状であり新規の供給も減少傾向にある。
▲	通信会社（営業担当）	・ 3か月前の販売数は前年比120%程度であったが、今月はほぼ前年並みとなっている。物価の上昇などによる買い控えがみられる。

現状判断のコメント②

- 企業動向関連では、修学旅行や外国人観光客の増加により観光需要が好調であり、県内の公共工事の需要も若干増加していることから好況傾向にある。
- 雇用関連では、新規求人数の増加や前年求人提出がない企業からも求人の依頼が増加していることから求人数の増加がみられるが、求職者の動きは変わらず鈍い傾向にある。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 食料品製造業（役員）	・ 修学旅行、外国人観光客共に増加している。また、最近のデータでも新型コロナウイルス感染症発生前と比べても増加傾向が続いている。街中での買物客も増えているため今後売上も良くなっていくと期待している。
○ 窯業土石業（取締役）	・ 見積依頼は全体で横ばいの状況だが、公共工事が若干増加傾向にある。

<雇用関連>

○ 職業安定所（職員）	・ 新規求人数について、3か月前より僅かに増加しているものの、前年同月比で減少している。年度末に向けて短期の求人が出てくることを期待している。
○ 学校〔専門学校〕（就職担当）	・ 前年求人提出がなかった企業からも求人依頼が増加していることから、求人数も増加している。
□ 人材派遣会社（総務担当）	・ 求人案件に対しての、求職者の動きが鈍い。求職者確保が課題である。
□ 求人情報誌製作会社（営業）	・ 求人数はほぼ横ばいの件数でここ数か月推移している。業種内訳として特にコンビニ・スーパーなどの小売業、派遣業の求人数は夏から若干の減少傾向にある。一方でコールセンター、ホテル、レジャーは緩やかに増加している。

先行き判断のコメント①

- 百貨店やスーパーなど年末に向けての需要増加が期待されており、合わせて客単価も上昇していることから先行きの期待感がある業態もみられる。
- 対して、旅行代理店や観光型ホテルでは、物価高などの影響による需要の減少が先行きの期待感を落ち込むとみている業態もある。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	百貨店（経営担当）	・ 年末年始、クリスマスギフト需要などが増加見込みとなる。
○	スーパー（企画担当）	・ 国による電気・ガス代の補助を、来年の1～3月まで実施すると発表されたことや直近で国内外の観光客を乗せた大型クルーズ船も多く寄港予定であることなどが今後2～3か月先の身の回りの景気に良い影響を与えるとみられる。
○	コンビニ（店長）	・ 客の購入単価をみると、数か月前より単価が上昇している。商品自体の高騰もあるが、買上点数も増加しているため、現状が続けば景気が良くなると判断できる。
○	一般レストラン（代表者）	・ 観光客が増加している。また、歓送迎会などもあるため、良くなっていくとみている。
□	衣料品専門店（経営者）	・ 今月は例年と比べて暑い日が続いており、季節商材の売上が良くない。客の買い控えが発生している。景気はまだ良くなる兆しがみえていない。
□	旅行代理店（マネージャー）	・ 物価高が止まらず旅行商材も値上がりしていて爆発的に伸びる要素がない。
□	通信会社（営業担当）	・ 春先には学生需要もあり回復すると期待できるが、それまではやや悪い現状が続くとみている。
▲	コンビニ（経営企画担当）	・ 競争環境の悪化に加えて、米の価格上昇や電気料金の補助終了など生活費がかさむため、影響が出ることを懸念している。
×	観光型ホテル（企画担当）	・ 11月の販売室数が前年比33%増加なのに対し、11月末時点での来年2月の予約室数は前年比22%減少とマイナスに転じている。

先行き判断のコメント②

- ・ 企業動向関連では、年末に向けての観光客増加や最低賃金の引き上げによる需要増加、工事の受注による売り上げ増加が期待されている。ただし、県内企業の広告にかける費用の消極化がみられる。
- ・ 雇用関係では、例年であれば年明けに向けて求人数の増加が期待されているが、9～11月の求人数の動きから懸念点も残る。また、2026年卒採用に向けた学校内説明会の依頼が、届いており求人数の増加が期待されている。

< 企業動向関連 >

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○ 食料品製造業（役員）	・ 年末に向けて外国人観光客を中心に増加を期待している。最低賃金の引上げもあり今後の売上増加に期待している。
○ 窯業土石業（取締役）	・ 受注した案件の工事が下期後半に集中しており、売上増加が見込める。
□ 広告代理店（営業担当）	・ 県内企業は、県外あるいは海外企業との競争が強まるなか、広告販売促進に伴う費用対効果が厳しくなり、やや消極的になっている。

< 雇用関連 >

○ 求人情報誌製作会社（営業）	・ 例年の流れとして年明け後の求人数の増加を見込んでいる。年明けから3月にかけて最も求人数が多くなる。ただし、9～11月期の求人数が前年を下回っているため、年明けから3月の求人数も前年を下回る可能性がある。
○ 学校〔専門学校〕（就職担当）	・ 2026年卒向けの学内説明会の依頼が多く届いており、それに合わせて求人依頼を受けるため、必然的に求人数は増加していくとみている。
□ 人材派遣会社（経営者）	・ 人材不足が続いているものの、一定の充足感もあり、経済環境も状況を見ながらなので大きな変化はなく現状を維持するとみている。